

親鸞仏教センター連続講座「親鸞思想の解明」

親鸞の生きた人生態度を、現代社会の大切な思想として掘り起こそうと、親鸞の思想・信念を時代社会の関心の言葉で思索し、考え直す試みとして公開講座を行っています。

「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」③①

業因縁の存在の翻り

親鸞仏教センター所長 本多 弘之



連続講座「親鸞思想の解明」は、「浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—」の第76回～78回が東京国際フォーラム（有楽町）で行われ、第76回では「法蔵菩薩の修行と成仏」等について、第77回では「阿弥陀の光」等について、78回では「寿命無量」等について、センター所長・本多弘之が問題提起をし、有識者と一般参加者の方々との間で活発な質疑応答がなされた。ここでは、先に行われた第75回から一部を紹介する。（嘱託研究員 越部良一）

■不可能を実現する願い

法蔵菩薩の願いは、一切衆生をたすけたいという願いです。これは不可能です。不可能けれども、それが成就しないならば自分は仏に成らないと。これは自分が完成できることを期待している願いではない。にもかかわらず、物語としては十劫の昔にもう阿弥陀仏に成っていると言うのです。それは矛盾しているわけです。しかし、そういう物語なのです。自力の教えと違って、他力の教えは、有限な人間を無限がたすけたいというわけでしょう。有限な人間を無限にしたいと。不可能です。しかし、不可能を不可能ではないのだと。不可能を実現したいという願いが本願であると。

われわれは分別の衆生ですから、考えたり、計算したり、比較したりということで苦しんでいます。そういう存在が、如来を思議することはできません。思議することのできない人間にどうやって如来を教えるか。そのときに、如来の側から衆生になってあげようと。衆生になって衆生のなかで立ち上がるのだと。こういう願が、至心・信楽・欲生の三心だししん しんぎょうと。三心共に如来の心である。如来の心は兆載永劫の修行の心である。兆載永劫の修行の心が、愚かな人間のなかに立ち上がるのだと。これを如来回向の信心と言うのだと。こう親鸞聖人はお考えになっていかれたのです。

つまり、有限を無限にするには、無限が有限に

なるほかないのです。有限はどれだけ有限を積み重ねても無限にはならない。しかし、無限は有限を包んでいる。だから無限の側が有限になることはできる。有限になった無限だと。これが「南無阿弥陀仏」なのだ。無限の大悲の願心が名になった。名において有限の衆生に無限を教える。そのためには、信じさえすれば無限の功德、無上功德を与えますと。無上功德はわれわれからはつかまえられない。けれども無限の側から、わざわざわれわれのために身を投げてくださるのだと。このようにいただきなさい、というのが回向のはたらきです。

われわれは本当に信じているのかと問われたら、信じているなどととても言えない。けれども、われわれが信じないならば、如来は成就しないのです。如来は成就しているとおっしゃるのだから、それを信ずるしかないのだと。われわれができるできないではない、初めからわれわれはたすからないのだと。たすからない存在をたすけずんばやまんという願がここに成就しているのだと。「ああ、そうですか」といただくしかない。これが親鸞聖人の言われる回向成就の信心という意味でしょう。

法蔵菩薩の修行が何のためかと言ったら、たすけることのできない愚かな衆生を、どうしてもたすけたいのだと。だから悲願なのだ。「諸仏の護念証誠ねんしやうじやうは 悲願成就のゆえなれば 金剛心をえんひとは 弥陀の大恩報ずべし」（『真宗聖典』486頁、東本願寺出版部）という和讃がありますが、「諸仏」とは、本願によって先に救われた方々のことを、後から行く人間が諸仏と仰ぐわけです。諸仏が護ってください。後から来る凡夫に、どうか凡夫よ、「南無阿弥陀仏」を信じてほしいと呼びかける。この極悪深重の世の中に、極悪深重の衆生に念仏を呼びかける。悲願成就のゆえなのだ。そして護ってください、護念証誠である。だからそれに出会うということが、金剛の信心を得ることだと。

■業因縁の存在としての自分

われわれの心は、愚かな心だし、弱い心で、本当にしょっちゅうコロコロ変わります。クッキーというお菓子があるでしょう。私はおいしいと思いますが、置いておくとすぐに湿気たり、少しの衝撃で粉々になってしまったりする。譬えて言うなら、われわれの心もクッキーみたいなものです。少し雨模様だと湿気で、天気が良いと元気になる。だからお天気次第です。いくら強そうに見える人でも、人には言わないけれど、心は弱い頼りないものなのではないでしょうか。「俺の心は変わらないぞ」と言える人はいないと思うのです。嘘では言います。「私、一生あなたを愛します」と言って、リングを取り交わして三日後に離婚したり。嘘八百です。けれど、嘘でもよいから信じたいのです。狐と狸の化かし合いと言いますが、凡夫は凡夫で、狐と狸で結構成り立っているわけです。だから、それをだめだとは言えない。そこに真実があるなどと言うから嘘なのです。

人間レベルの誓いなどは、いくらそのとき本当だと思っても、たちまち雲散霧消します。これは人間が悪いからではないのです。人間とはそういうものなのです。人間は状況存在ですから。だから、状況が悪いからそうなったと思うわけです。でも存在自身が、そうなるような存在なのです。そういう状況を引いてくる存在なのです。

「引業」という言葉があります。業を引くのです。業とは、自分で思っていないけれども、そうになっていってしまうのです。そして、相手の責任にするのです。自分は悪くない、相手が悪い。しかし、そういう悪い相手と出会う因縁は自分なのです。自分なしに勝手に出会うわけにいかない。だからやはり人間は縁を生きる存在なのです。

仏教の教えは厳しいと思うのです。嫌な教えだと思うのです。凡夫は自分の好きにしたいのです。だけど仏教はそれを許さない。お前は因縁の存在なのだ、業因縁を生きているのだと。それを、「ああ、そうだったな」と、逃げられない因縁をいただいていたからこそ、本願がありがたいのだと。そのように翻ったときに、初めて他力の本願が自分の身に起こってくるのです。翻りなのです。翻るまでは徹底的に、できの悪い存在だと教えてくるのです。それが嫌なのです。けれども、これは真実の教えだと、人間にとってどれだけ嫌でも逃げられない、そうだんだん言い当てられてきて、「ああ、本当にそうでした」となると、南無阿弥陀仏がありがたいのです。

(文責：親鸞仏教センター)

親鸞仏教センターの動き

(2014年11月～2015年1月) 一抄出

■2014年

- 11/6 第147回清沢満之研究会「清沢満之の『宗教』および『宗教哲学』における『哲学』の意味」愛媛大学法文学部准教授：杉本耕一氏(千代田区・フクラシア東京ステーション)
- 11/14 親鸞聖人ご命日のつどい
第5回『西方指南抄』研究会
- 11/17 第168回英訳『教行信証』研究会
第76回(通算第127回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 11/18 第19回『教行信証』「化身土巻・未巻」研究会
- 11/25 第148回清沢満之研究会
- 11/28 第10回研究員と読む公開輪読会「救済の欲求―『往生要集』を読む―」担当：藤原智研究員①11/28②12/5③12/12④12/19(文京区・東京大学仏教青年会館)
- 12/3 第169回英訳『教行信証』研究会
- 12/6 第24回佛教文化学会学術大会(大正大学)：大澤囑託研究員発表「親鸞伝における六角夢告の語り―その表象と変遷―」
- 12/8 平成26年度西山学会(京都・誓願寺)：中村研究員発表「西山浄土教と法華経―西山深草義の傳承を中心として―」
第4回センター会議(親鸞仏教センター)
- 12/9 第149回清沢満之研究会
- 12/12 ご命日のつどい
- 12/15 第6回『西方指南抄』研究会「院政期から鎌倉期にかけての遁世―法然の遁世は他の遁世と異なるのか―」東京大学文学部教授：菱輪頭量氏(千代田区・東京国際フォーラム)
- 12/17 第7回『西方指南抄』研究会
第77回(通算第128回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 12/20 浄土宗西山深草派宗学院研究生研究発表(京都・誓願寺)：中村研究員発表「顕意「浄土疑端」成立の検討」
- 12/22 在京大谷派関係研究者・学生報恩講兼交流会(親鸞仏教センター)
- 12/24 第20回『教行信証』「化身土巻・未巻」研究会
- 12/26 親鸞仏教センター報恩講

■2015年

- 1/8 第12回親鸞仏教センター研究交流サロン「〈孤独〉の可能性―カウンセラーの視点から―」明治大学文学部教授、日本トランスパーソナル心理学会会長：諸富祥彦氏(千代田区・フクラシア東京ステーション)
- 1/9 親鸞聖人ご命日のつどい
第10回研究員と読む公開輪読会「他力の救済とは何ぞや―絶対他力の大道―」担当：名和達宣研究員①1/9②1/16③1/23④1/30(文京区・東京大学仏教青年会館)
- 1/13 第78回(通算第129回)連続講座「親鸞思想の解明」(千代田区・東京国際フォーラム)
- 1/14 第150回清沢満之研究会
- 1/23 第8回『西方指南抄』研究会
- 1/26 第170回英訳『教行信証』研究会
- 1/28 第21回『教行信証』「化身土巻・未巻」研究会

掲載論文

- 12月 『印度學佛教學研究』第63巻第1号
藤原研究員「『教行信証』「化身土巻」所引『大集経』「忍辱品」への一試論：『往生要集』との連関から」
中村研究員「西山義特殊名目「観門」の成立過程の再検討」